

見本

安全管理の指標

見本



船員災害防止協会

目次

第1章 注意力で災害は防げるか

1. はじめに	1
2. 注意力の性質	4
2-1 注意力の変動性	4
2-2 注意力の選択性	6
2-3 注意力の情報性	8
2-4 注意力は状況によっても変わる	10
3. エラーの種類	12
3-1 エラーの形態	12
3-2 作業過程別に見たエラー	13
4. エラーが起きる原因	15
5. エラーが起きる割合	16
6. 不注意の正体	21
7. 注意力だけに頼らない災害防止	25

第2章 作業環境は災害発生とどのような関係があるか

1. エラー誘発とエラー防止の作業環境	28
1-1 道路標識	28
1-2 エラー誘発の機器類とその改善	38
2. 災害はどのような仕組みで起きるか	45
2-1 人間工学とは — 事故を見る視点	45
2-2 人間工学の方法論	47
2-3 不注意は事故の原因ではなく結果である	48
2-4 精神主義的安全論「事故不注意論」の克服	49
2-5 事故原因分析と再発防止策	52

3. 災害事例からの教訓	58
3-1 医療事故の分析と再発防止策	58
3-2 交通事故	61
4. 人間工学チェックリストによる作業環境改善	62
4-1 人間工学チェックリスト	62
4-2 IEA/ILO刊「人間工学チェックリスト」	62

第3章 災害事例の生かし方

1. 災害事例の分析からわかること	66
2. 分析は作業の目的や方法の理解から	71
3. 人間の「能力の限界」をどのように考慮するか	73
4. 他の災害事例から何を学ぶか	87

第4章 船員災害を防止するために

1. 船員災害	90
1-1 船員と船員災害	90
1-2 船員災害の実態	91
2. 船員の安全衛生に関する法令	97
2-1 船舶所有者及び船員の責務	98
2-2 社内の安全衛生管理体制	99
2-3 船内の安全衛生管理体制	101
2-4 安全担当者の業務	105
3. ISMコードと船員の安全衛生管理	109
4. 職場での災害防止活動と安全対策	113

第1章 注意力で災害は防げるか

1. はじめに

人間がなんらかのかたちで関係している事故や災害が起きたときに、「もっと良く注意をしていればよかったのに」などといわれることが多い。「改めて職員の綱紀を引き締め、注意を喚起して再発防止に努めます」などという文言も新聞やテレビでしばしば目にする。この言葉の裏には、“この事故は、担当者の不注意によって起きたものであるから、もっと注意することによって再発が防止できる”という考え方が潜んでいる。担当者自身も「もっと注意していれば、あんなことにはならなかったはずだ」と思うこともある。確かに“不注意で起きたものは、注意すれば防げる”という言葉は、なにか自然で納得しやすい。だからこそ世間でずっと長い間使われてきたのであろう。でもはたしてこの考え方で事故や災害の再発を本当に防止できるのだろうか。

私たち人間は、確かにいうっかりしたり、どうしてそのようなことをしたのか後になって考えても、自分でも分からないようなことをしたりして、苦笑したり悔やんだり、時には悩んだりする。それは、個人の生活場面でもよくあることである。電話のかけまちがい、鍵束からまちがった鍵を取り出してドアを開けようとする、駅のポストに入れるつもりで朝出掛けに持ってきた手紙を、一日中持って歩いてしまったことに夜になって帰宅して気が付く、来客と話をしている最中にかかってきた電話に出て、再び先ほどからの来客との話に戻ったとき、すぐには話の続きを思い出せないこともある。年賀状をたくさん書いているうちに、いつの間にか、最初の頃に較べて一層ひどい字になっていたりもする。何人かで肩を振っているときに、誰かの話に刺激されて、ふと思いついたことがあり、その人が話し終わったらそれを話題にするつもりでいたのに、いざその段になったら、忘れていたりする。居間の電話の脇にあるメモを取りに行ったらちょうどその時にかかってきた電話にでて、その後、そのまま自分の部屋に戻り、そこでメモを手にしていないことに気が付く。ときには、なにをするために居間に行ったのかさえ忘れて